

基本目標	基本方向	掲載ページ
I ジェンダー平等の意識向上	1 ジェンダー平等の意識の形成	1～22
	2 ジェンダー平等教育の促進、充実	

ジェンダー平等の意識形成や教育の促進・充実に向け、セミナー・講演会・学習会・広報等の多様な機会を活用し、対象者や内容の工夫を行いながら、継続的に啓発を進めることが重要である。

- 男女共同参画セミナーは、宋美玄先生の講演があり、女性の身体は、毎月命を産む準備ができており、女性の身体を守る配慮が必要であるというお話をしました。
男女共同参画社会の基盤として、まずは女性の心身に対する正しい理解と尊重が欠かせない。宋美玄先生のお話を通じて、職場や家庭、社会全体での配慮と支援のあり方を改めて考える機会となった。
- 企業内研修会、デートDV防止講座は、参加者が会場に行かなくてもよいので、参加者の拡大につながる市民啓発の大切な手法だと考える
- メディアリテラシーの育成は、年齢が早いほどよいと考える。小中学校で、講演会を実施しているのは、これから的情報社会に主体的に対応するためには、必要不可欠だと考える。
- 3中学校における保護者に対するジェンダー平等についての啓発は、性に関する学習会を学年別に生徒と保護者を対象に実施しているので、3か年の積み重ねにより、保護者と子どもが一緒に考えるよい機会、啓発になっていると考える。
- 男女共同参画に関する標語「一行詩」の応募は、小中学校とも応募作品数が多くあり啓発が定着してきていると感じる。高校が0件なのは、残念である。
竟成館高校、玄界高校、特別支援学校には是非、応募を呼び掛けてほしい。
- 一行詩が高校生からも出るようになるといい。
- 令和7年度の一行詩の選考に際して課題の趣旨に合わない作品がみられた。募集案内の見直しの必要性を感じた。
- 世代や属性の人が対象となるように工夫しながら、セミナーや講演会による啓発を実施されている点は素晴らしいと思います。
- 「アンコンシャスバイヤス」（思い込み・偏見）の取り組みは、男女共同参画の根本的な部分にあたり、とても有意義な事と評価できる。
人それぞれにある思い込みや偏見は周りの環境や経験で成り立っていて、それを変えるのはなかなかむずかしいものだが、こういった取り組みの積み重ねで、ある日「目からウロコが落ちた」という様な気付きが起こるかもしれない。人々の視野が広がればいいと思う。
- メディアリテラシーの後援会を全小中学校での実施は継続して欲しい。
- 保護者対象の啓発については、小学生でも学習会を実施したほうがよいと思われる。性に関する学習会は小学生でも5年生以上では必要である。
- 教育委員会主催研修会の内容にジェンダー平等が入っていないが、性の多様性と合わせて研修することを検討していただきたい。
- ジェンダー平等意識などのような所（係・課など）においても必要だと思うので各課で連携して事業等を継続することはとても大事だと思います。
- 広報こがにて、ヒューマンライツを毎月拝見していますが、それぞれのテーマにそって読んでみようかなと思える見出しであること多く、内容的にどうしても難しくなりがちですが、わかりやすい表現や注釈があるとより良くなると思います。
- 点検・評価シートについて
このシートでは担当課の枠を超えた協働の状況がわかりにくい。関連する基本施策番号や協働した担当課名を記載できるようにするとわかりやすくなると感じた。

基本目標	基本方向	掲載ページ
II あらゆる分野における男女共同参画の実現	1 施策・方針決定過程への女性参画の拡大	23~55
	2 就労の場における男女共同参画と女性の活躍の促進	
	3 家庭生活、地域活動等における男女共同参画の促進	
	4 國際的視野に立った男女お共同参画の促進	
<p>施策決定や就労、家庭・地域活動の各分野で男女共同参画を推進し、女性の参画拡大や具体的な取組を継続的に進めるとともに、更なる工夫も必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治会長の構成は、女性10.9 %なので、地道に啓発を続けてほしい。 ○男性の育児休業取得率が100%に向上したのは、素晴らしい成果である。課長職以上の女性職員割合が低い水準なのは、性別に関係なく能力や適正、方針と矛盾する。職務経験を重視したという人事異動の実施方針と矛盾する。 ○リーパスカレッジと連携した女性のキャリアアップ支援や、再就職支援は、男女共同参画社会への大きな促進へつながる事業だと考える。 ○ミニつどいの広場のママ講座、パパ講座は、男女が共に育児を協力していく関係を築くためにも、また男性の育児不安を取り除くためにも、よい事業だと思う。 ○認知症サポーター養成講座は、小中学校に加え玄界高校で開催できたのは、前進だと思う。これから高齢化社会は、地域の支援、若者の支援など、社会全体で担うことが求められている。 ○こがのパパたち写真展は、とても温かいパパたちの子どもへの愛情があふれている素晴らしい展示だった。また、多文化共生を取り入れたのも、からの古賀市の多文化共生社会実現のための促進につながる市民啓発の場の提供になったと考える。 ○審議会等委員の女性割合や、男性職員の育休習得など、取り組みの成果が認められる項目が多くなっており評価できます。 ○p36とp39の講座については、その内容が男女共同参画の理念に合っているのか疑問に感じました。 ○p28の隣組長の男女比は425：179（人）で、一見男性がとても多いように見えるが、実際はどうかわからない。ほとんど奥様がやっているのに旦那様の顔を立ててとか世帯主の名前でとかあると思う。PTAの役員等も以前はほとんど男の人の名前だったが、段々と実際に動く方の名前になってきてるので、今は、女性の名前が多いと思う。組長名簿もそうなればいいと思う。 ○認知症養成講座の受講生が1544人（男女比3：7）はからの高齢者社会に備えて、男女問わず更に増えていいと思う。 ○子育てパパたちを応援するような取り組みはそれ自体を応援したい。パパたちにも育児や家事を楽しめる様、パパ友ができて心強い味方になるといいと思う。 ○事業内容と成果の記述内容が合致していない印象を受けた。 ○課題に記述されている「低い水準」とは具体的にどれくらいの割合なのかが不明確である。実際の数値を記述することが望ましい。 ○配偶者出産休暇・・・の目標値は段階的に設定する方が良いように思う。 ○このシートでは担当課の枠を超えた協働の状況がわかりにくい。関連する基本施策番号や協働した担当課名を記載できるようにするとわかりやすくなると感じた。 ○リーパスカレッジなどの講座が性別を問わずに募集し、少数でも男性の参加があるのは良いことだと思います。 ○女性向けの就労講座・男性向けの料理教室等家事力向上のための講座とお互いのことがわかるような講座があり心強いでです。 		

基本目標	基本方向	掲載ページ
III 男女の自立と社会参画に向けた環境整備	1 ワーク・ライフ・バランスの確立と社会参画への支援	56~83
	2 生涯を通じた健康管理への支援	

男女が共に安心し男女が共に自立し、安心して社会参加ができるよう、保育・学童、研修、相談窓口などの取組を継続的かつ計画的に実施するとともに、固定概念の解消やサービス充実など更なる工夫も必要である。

- 昨年度もリーパスカレッジに参加したが、高齢者が多く健康増進、社会参加として最適だと感じた。多くの参加者が新しい知識・興味関心を向上させている。また、健康増進にもつながっている。男女とも多くの皆さんのが、思いやりの心をもって接していた。
- 例えばp59のように、行政が当然に行うべき事業を問題なく行っているということが書かれているだけの内容が目立ちます。「ジェンダー平等の視点に立った」取り組みができているのかどうか評価し難いです。
- 「待機児童ゼロを堅持できた」は維持できる様受け入れを頑張って欲しい。保育士の確保は常に課題なので110名増加できたのはすごい。
- 「学童保育の入所児童数が大幅に増加によって施設確保が困難」とあるのは、これからの危機をとても感じます。対策が必要ですね。
- 「ゲームを通じて気づく、自分のくせと思い込み」の研修会はいろいろな所でやったら、人それぞれ何かしらの気づきがあって、固定概念を取っ払うきっかけになりそう。楽しく学べるのが良いと思う。
- 性暴力アドバイザー派遣授業は、できれば全小中学校でやれるといいと思う。
- 共働きが増える中で「ワンストップ窓口」で相談ができるのは良いことだと思う。
- 4月時点での待機児童ゼロは心強いです。女性の社会進出において欠かせない部分だと思う。
- 青少年期での正しい性知識は自分自身を守るためにとても大事だと思う。

基本目標	基本方向	掲載ページ
IV あらゆる暴力の根絶と被害者支援	あらゆる暴力の根絶と被害者支援	84~101
DVやデートDV、ハラスメントに関する認識を高めるため、学校や職場、公共施設など様々な場での継続的な啓発や相談体制の周知が必要である。		
○新任課長研修において、ハラスメントに関する人権学習を実施したことは、職場における上司、同僚の共感的な人間関係、働きやすい職場環境をつくるためには、効果的だと考える。大野城市では、上司のハラスメント事象が起きており、タイムリーな研修だと考える。		
○デートDVの防止については、中学校だけでなく大学でも講演を行うなど、積極的な取り組みが評価できます。		
○デートDV学習会の実施は全小中学校でできたのは、いいと思う。		
○「現在DVに関する相談は少なく」とあるが、なかなか口に出せず、悩みをかかえたままの人が多いように思う。		
○こがホットライン等、相談カードの配布・配架は続けて欲しい。ギリギリまで、お守り代わりに持ってる人もいるかもしれない。 いつでも相談できる所があるというだけで、少しは気が楽になると思う。		
○「国・県作成のポスター掲示」はとても効力はあると思う。無言の抵抗だが、できるだけ目立つ場所に、誰もが目に付くように掲示して欲しい。 しつこい位、それは悪い事だと訴えた方がいい。		
○成果の2点目に記述されている「相談」のアイコンがどれなのか、実際にホームページを確認したがわかりにくかった。		
○事業内容への記述について、市役所内・公共施設内のポスター掲示・チラシの配架では、来庁者にしか周知できないように思う。情報提供の方法に工夫が必要かもしれない。		
○「こが女性ホットライン」やそうだん5の日程など、毎月広報こがの行動カレンダーに掲載されているのは、とても良いと思う。 相談したいと思った時にどこに連絡すれば良いのかがわかりやすいのはありがたい。		
○「児童虐待」「女性に対する暴力」はDVの中でも件数も認知度も上位だと思うので、防止に向けての啓発はとても大事だと考えます。 しかし、女性→男性への暴力（主に言葉になるかと思います）の言い出しにくさも注視して良いと思います。		
○言葉の暴力も人の死につながっています。		

基本目標	基本方向	掲載ページ
V 性別にとらわれない多様な生き方の尊重	I 性の多様性への理解促進	102~106
パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度、交流会、学校・保育所での学習など多面的な取り組みにより、性の多様性への理解促進と安心できる居場所づくりが進んでいるが、継続的な周知・啓発の工夫が今後さらに求められる。		
<p>○性的マイノリティ交流会の実施は、参加した人の相談できる心の居場所交流場所として 安心でき、生きる力が湧いてくる場所となったのではないだろうか。</p> <p>○教育の日に人権集会を実施しており、各学校とも性の多様性や、人権の大切さを発達年齢に応じて学習し、それを保護者や地域の人に発信している。</p> <p>○家庭が連携した性の多様性への理解促進の大切なかつ効果的な啓発の場になっている。</p> <p>○「一人ひとりがかけがえのない存在として尊重される社会への支援」（多様性を認め合う社会）となっている。性の多様性への理解促進が学校では推進されている。</p> <p>○保育所で絵本や紙芝居の教材を使用しながら、性の多様性についての実践は、小さい頃からの積み重ねが大切なので、今後も小学校とも連携して継続してほしい。</p> <p>○パートナーシップ宣誓、ファミリーシップ宣誓の受けつけは、宣誓カップルが2組あった。自分らしく生きることの保障が施策により、達成できるのは施策の効果。</p> <p>○宣誓制度は、古賀市の前進的な取り組みと取り上げられたが、その後、時間の経過と共に周知が薄くならないように、継続的に啓発活動を多様な手法で展開してほしい。</p> <p>○交流会の開催など、充実した取り組みが行われていると思います。</p> <p>○多様性を認め合う講座は続けて行く事で、当事者達の心の寄り所となって、住み良い街づくりに繋がってると思う。</p> <p>○パートナーシップ宣誓カップル2組は「古賀市に家族として認められた」という安心感を与える事が出来、良かったと思う。あなたは素のあなたのままで良いって皆言われたいですよね～。</p> <p>○きっと昔からあったであろう問題が、近年表に出てきいろいろな整備を進めている最中だと思いますが、その中でも古賀市が理解促進への力が強いと感じます。幼少期からしっかり伝えることにより、年配の方よりも子供たちの方がマイノリティを受け入れやすくなっている気がします。</p> <p>○継続していくことも大事ですし、幼少期から正しい理解（知識）を学ぶことがより良い未来につながると思います。</p>		

全体について

○計画の成果指標は、計画実施状況の前に移動する方が良いように思う。